

紙面が新しくなりました!

七 や り つ パ 通 告

笑顔を咲かせよう♪

七 や
り つ パ 通 告

New!
Vol.1
2018

みんなで種まき 明るいみらい。

デイサービス
みなまきみらいを訪ねて

お客様にいじは「もうひとつの自分の居所」と思っていただけのデイサービス施設をめざして。

新しい紙面では、横浜市福祉サービス協会の各事業所を紹介していきます。今月号はトップバッターとして「デイサービスみなまきみらい」をご紹介します。相鉄いずみの線・南万騎が原駅から徒歩1分と抜群の立地。できたばかりでピカピカのケアセンターみなまきみらいの中に入り、今年8月で開所1年を迎えます。みなまきみらいの愛称は最寄り駅の南万騎が原からきているのですが、『みなで種まき明るいみらい』といいたくなるような、いきいきとした雰囲気があふれています。

それというのも、開所にあたっては職員たちが、事務所内につけるカーテンやペンドントライト、備品などを、ひとつひとつ吟味して選ぶところからスタートしており、利用されるお客様に、いじを「もうひとつの自分の居場所」と感じていただけるようとの思いを込めて運営しているせいかも知れません。

開所してまだ1年に満たない事務所ですが、ご利用いただくお客様は日々でだんだん増え、最初は通うのを嫌がっていたような方までが、事業所の雰囲気が気に入つて、あつという間に大ファンになっていました。これも、職員が心がけている「もうひとつの自分の居場所」づくりが、ハード面でもソフト面でも成功しているからかもしれません。たしかにすれ違う職員の方たちは一人一人が優しそうで、笑顔が素敵な方たちばかり。これなら安心して頼れて、毎回来るのが樂しみになります。

楽しげなレクリエーションから、快適に安心して過ごせる入浴タイムまで、心をこめて運営。

「ティイサービスみなまきみらい」では、午前中は機能訓練が中心の短時間。午後は趣味活動を中心につづく夕食まで提供しています。今回取材におうかがいしたのは午後の時間でしたので、レクリエーションの様子から評判のおいしい夕食までの様子を見せていただいきたいとができました。

広いお部屋では、いくつかのテーブルに分かれて10人ほどのお客様が椅子にくつろぎながら職員の示すホワイトボードに見入っている様子。職員の問

いかけに「夕はみなさんか大きな声で答えてお
り、見ると、なかなか難しいしりとり遊び。集い→椅
子→睡蓮、と答えが続くたび、ちょっとした歓声が
あがっていました。



お花なのだと。楽しい雰囲気に華やかな彩りまで添えていたときました。

お話をうかがったお客様からも大満足のご様子。とくに夕食が素晴らしいとのお褒めをいたしました。

お風呂場を見せていただくと、広い脱衣場があり湯船にはマイクロバブルという小さな気泡を出す装置までが備えつけられていて、快適で安心できる入浴タイムが過ごせそうです。

ちよつと胸をつまらせたり、手拍子で囁和したりなど、とにかく楽しめた。ふとヒカラオケに飽きたと、近くのマガジンラックには旅や趣味の雑誌なども用意されており、ソファでくつろぎながら気分転換することもできるようになつてます。



情が魅力的な金光さんにお生まれをおたずねする
と、なんと大正10年のお生まれだとか。今年で97歳になられるとは思えない元気ぶりです。秘訣をおたずねしたところ、骨折をしてしまった90歳までは社交ダンスを続けられ、しかも模範となるデモンストレーターをされていたとのこと。そのうえ、いまでも水泳を楽しんでおられるのです。それが活力にあらわれているのかもしれませんね。また近所のフランス人に直接フランス語を習つておられるのです。これにもびっくり。取材を終えておふくろおばさんには、「ついで」とオウルヴォワール(わゆうなり)とフランス語でおちだつされました。

そじて、よるは夕食の5時半。職員のみなさんが手際よく夕食を盛り付け、配膳します。金光さんが『このお夕食はとにかくねこのお夕食。それだけは絶対に書いてくださいね』とねつしやつした通り、皿にわねこちゃんの盛り付けです。一食110円ですが、そのぶん食欲も引き立ててくれるのでしたが、皿慢、とは職員の声。みなさん、ありがと



デイサービスみなみらいは駅から徒歩1分と抜群の立地で、同フロア内にケアプラン作成と訪問介護、訪問看護の事業所も併設しています。お気軽

金光俊子さんにお話をうかがうと、最初はお友だちの紹介で来られたそうですが、事業所の雰囲気や職員の接遇がすっかり気に入つて週に2回ご近所から通われているそうです。背筋が伸び、いきいきとした表

ここが地元の
穴場
スポット

憩いの遊歩道が整備され、四季折々の自然が
楽しめる「柏町市民の森」。

南万騎が原

南万騎が原がある旭区は、公園が多い区としても横浜随一ではないでしょうか。ゲンジボタルが生息し、水田やバーべキュー広場などがある広大な「子ども自然公園」をはじめ、たくさんのお公園があります。

しかし、今回、穴場スポットとしてお伝えしたいのは、南万騎が原駅の西側にある自然保護公園である「柏町市民の森」。特に遊具などがあるわけではなく、「これといった目玉があるわけでもありません。でも、だからこそ、まさに大人のためにあるような静かな散策が楽しめる公園なんです。

2015年にできたばかりで約1・9ヘクタールのゆるやかな樹林帯の敷地は、散策エリアと自然保護エリアに分かれ、散策エリアにはスギやヒノキ、コナラ、クヌギといつた木々が立ち並んでいます。コナラやクヌギといえば、カブトムシやクワガタが好む樹木ですので、夏の盛りともなれば、絶対に「れりの虫」を見つけることができるはず。童心にかえつてカブトムシなどを捕まえられ

たら、お子さんやお孫さんに尊敬の目でみられるかもしませんよ。

全体に里山の雰囲気があり、その中に遊歩道が整備されていて、とても歩きやすいのが特徴です。足もとはほぼ整備されていますので、車椅子を押して歩くこともできますし、雨の日でも足もとが泥まみれになることもないでしょう。鳥のさえずりを聴きながら、気持ちのいい森林浴をいつでも楽しむことができます。

お店が少ない南万騎が原ですが、この市民の森の近くには相鉄ローゼンがあり、ちょっとした飲物などを買って散策するにもいいでしょう。春は田にしみるような新緑を楽しみ、夏はひんやりした木立の涼しさを味わい、秋はほどよい運動をする場所として、四季折々に楽しめます。



Voice

私が肝臓がんを宣告されたのは2年半前のこと。頭の中がまつ白になりました。その後一年半の間に3回もの肝動脈塞栓術を受け、入退院をくり返し、自暴自棄の状態でした。

そんなとき、入院していた済生会横浜市東部病院内の退院調査室の看護師さんより紹介していただいたのが、横浜市福祉サービス協会の新子安地域ケアプラザと神奈川介護事務所です。昨年10月に退院して、今年2月からはヘルパーの加藤知美さんにずっとお世話になっています。明るくてキッパリと行動する彼女は、悲観的になりがちな私の話も聞いてくれ、物理的にも精神的にも私を助けてくれる存在。

いまでは自暴自棄を乗り越え、心穏やかに、人事を尽くして天命を待つ、心境となりました。単にヘルパーであるだけでなく、心に寄り添ってくれるカウンセラーでもある彼女を、私はひそかにカウンセリングヘルパーと名づけ感謝するとともに、ケアマネジャーの丸橋淳子さん、サービス提供責任者の長谷川栞さんにも深く感謝しているのです。



左からケアマネジャー丸橋淳子、大岡正明様、加藤知美ヘルパー、サービス提供責任者 長谷川栞

肝臓がんを宣告された私に、寄り添って

助けてくれた横浜市福祉サービス協会と

ヘルパーの加藤知美さんに感謝。
大岡正明



平成29年度「お客様アンケート」報告

アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。



訪問介護編

多くのお客様からヘルパーの仕事ぶりや接遇面で良い評価をいただきました。しかし、なかには「ミニユーケーション不足のため、行き違いがあったともうかがえるご意見もあり、「ミニユーケーションの大切さを改めて感じました。今後もより丁寧に業務をすすめてまいります。

居宅介護支援編

いただいた記入式の「ご意見」の中には「ケアマネジャーの説明を聞いて安心した」「今後も頼りにしています」などケアマネジャーが多くのお客様から安心・信頼を頂いていることが分かりました。しかし反面、電話対応について「話し方に冷たさを感じた」とのご意見がありました。お客様のご意見を真摯に受けとめ協会全体で改善してまいります。

これからも皆様から頂いた貴重なご意見を生かし更にサービスの向上に努めてまいります。



いま振り返る
「ちゅーりつぷマーク」に
込められた思い

横浜市福祉サービス協会のパンフレットや広報誌、封筒などで目にすることの多い「ピンクのちゅーりつぷマーク」は、まだ「(財)横浜市ホームヘルプ協会」時代の1988年(昭和63年)から使用されてきたものです。

当時の職員・ホームヘルパーとそのご家族から案を募集し、応募総数98点の中から入選したのはホームヘルパーのご家族からの案でした。

その案の「博愛・誠実な愛」などの花言葉を持つチューリップをアレンジし、協会のシンボルとしてデザインされています。

白抜きの花の輪郭は、横浜の頭文字の「Y」も併せてイメージされ、それを包み込むピンクの円は「ヘルパー・お客様・協会の輪(和)」を象徴しています。基調となる色は、太陽の柔らかな日差しを受けた「暖かさ」、「やさしさ」を表現しています。

30年もの間、協会とともに歩んでいるこのマーク。

これからもこのマークとともに、職員一同「できる所、まだまだ」。現在、そして未来へ向けて頑張ってまいります。

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき… ほっとライン

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか?

♪ 045-227-1718

※受け付けは年末年始および祝日を除く月曜～金曜の8:45～12:00／13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

♪ 0120-701-782 FAX 045-227-1721

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

045-227-1700 FAX 045-227-1701
ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>